

各位

株式会社 **キッツ**

代表取締役社長 堀田 康之  
 千葉市美浜区中瀬一丁目10番1  
 東証1部 6498

## KITZ Smart Aquaculture

水産ビジネスの新しいかたち  
**キッツスマート養殖**  
 -3つのソリューションで市場参入-

キッツは、2012年6月より、グループ各社の水関連技術や製品、サービスを結集した総合的な活動「KITZ Water Solutions(キッツ ウォーター ソリューションズ 以下、KWS)」を展開してまいりました。

このたび、この KWS の成果として、電氣的に生成させたラジカル反応<sup>※1</sup>を用いて水を循環浄化しながら陸上で魚を養殖するプラントを独自に開発し、マダイの長期飼育及び同プラントの自動制御・遠隔監視システムの運用試験に成功いたしました。

※1 ラジカル反応:有機化学反応の内、反応過程においてラジカル(遊離基)が関与する反応のこと。

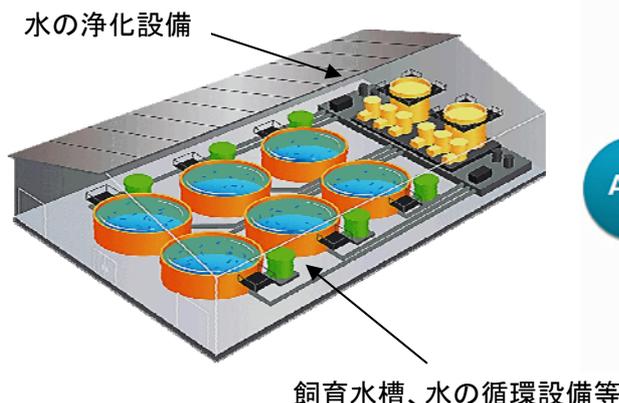
### ■世界の養殖市場の現状

国際的な水産市場においては需要の高まりと天然資源の不足から、2015年度には世界のマーケットに出回る魚の約半数を養殖魚が占めるとされており、この傾向はさらに加速するものと予測されています<sup>※2</sup>。近年、いけすを用いた海面での養殖において課題とされる海洋汚染や台風・赤潮などの自然災害の回避と安定生産、さらには作業負荷の低減やトレーサビリティの確保、ASC 認証<sup>※3</sup>への対応などを念頭に、欧米を中心に、水を循環浄化しながら屋内で魚を養殖する、閉鎖循環型陸上養殖(Recirculating Aquaculture Systems)が広がりをを見せています。

※2 Food and Agriculture Organization of the United Nations(国際連合食糧農業機関)資料による。

※3 ASC 認証: Aquaculture Stewardship Council(水産養殖管理協議会)による認証で、持続可能で環境や社会的責任に配慮して生産された養殖水産物であることを認証するもの。ロンドンに続き、2016年のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会では、提供される食事サービスに使用される養殖水産物を、ASC 認証取得品のみにすると言われている。

### 【閉鎖循環型陸上養殖プラント】



## ■マダイの長期飼育及び自動制御・遠隔監視システムの運用試験に成功

キッツは、新しい水浄化技術の開発成功(2014年7月発表)に続き、キッツ茅野工場(長野県茅野市)に独自技術で建設した自社プラントにおいて、無投薬でマダイを長期飼育することに成功いたしました(2015年10月21日時点で141日経過、飼育継続中)。さらには、同プラント向けに自動制御・遠隔監視システムを独自に開発し、その運用試験にも成功いたしました。



自社プラント(キッツ茅野工場)



遠隔監視画面

```

2015/07/13 10:48:32
養殖用水処理装置
ラジカル処理系統_No.2
株式会社キッツ 事業開発部

飼育水槽pH レベル1が発生しました
[DI01] DI1<飼育水槽pH レベル1> : Alert
-----END-----
    
```

E-mail 通報画面

## ■キッツスマート養殖 - 3つのソリューション -

これらの成果を踏まえ、エンジニアリング(水浄化技術、養殖プラントの最適化設計・施工管理等)、マネジメント(養殖プラントの自動制御・遠隔監視、メンテナンス、飼育ノウハウ等)、コンサルティング(事前調査、事業計画の策定、人材育成等)の3つのソリューションを提供する「キッツスマート養殖」で、今後成長が予想される養殖プラント市場に2016年度より参入してまいります。国内外の事業家様が新規事業として水産ビジネスを検討される場合、その構想段階からプラント建設、施設の運用管理までトータルでサポートする体制を構築してまいります。

高度に自動化・省力化されたシステムを用いて、消費地に近い場所で品質の高い養殖魚を安定生産し、活魚や鮮魚として出荷することが可能となる他、加工場を併設することで高効率かつ衛生管理面でも強い優位性を持った商品の開発が期待されるなど、これまでにはない新たなビジネスの展開を提案いたします。



■本件に関するお問い合わせ先  
 株式会社キッツ 経営企画本部 事業開発部  
 電話 043-299-0143  
 E-MAIL: info-kws@kitz.co.jp